

平成30年度 江戸川区熟年しあわせ計画及び介護保険事業計画検討委員会

議 事 要 旨

開催日時：平成31年3月14日（木） 午後7時00分～午後9時00分

開催場所：グリーンパレス 千歳・芙蓉

所属等	氏名	出欠
京都女子大学	太田 貞司	出席
ダイヤ高齢社会研究財団	澤岡 詩野	欠席
江戸川区医師会	浅岡 善雄	出席
江戸川区医師会	小川 勝	出席
江戸川区歯科医師会	広瀬 芳之	欠席
江戸川区薬剤師会	篠原 昭典	出席
東京都医療社会事業協会	藤井かおる	出席
江戸川区訪問看護ステーション連絡会	上村 和子	出席
江戸川区熟年者福祉施設連絡会	関口浩太郎	出席
NPO法人 江戸川区ケアマネジャー協会	内藤 修	出席
江戸川区訪問介護事業者連絡会	江面 秀樹	出席
江戸川区地域密着型サービス事業者連絡会	梅澤宗一郎	出席
熟年相談室（地域包括支援センター）	後藤たか子	欠席

所属等	氏名	出欠
江戸川区生活支援協議会	大越利依子	出席
江戸川区民生・児童委員協議会	山口 昌一	出席
江戸川区社会福祉協議会	山崎 実	欠席
公 募	寺本 孝行	出席
公 募	片岡 英枝	出席
公 募	菊地 智恵	出席
公 募	池山 恭子	出席
江戸川区連合町会連絡協議会	中川 泰一	出席
江戸川区くすのきクラブ連合会	村田 清治	出席
江戸川区ファミリーヘルス推進員会協議会	石井 恵子	出席
江戸川区議会議員	野崎 信	出席
江戸川区議会議員	所 隆宏	出席
江戸川区副区長	山本 敏彦	出席

委員長 副委員長

1. 開会
2. 委員紹介
3. 委員長及び副委員長選任

委員の互選により、委員長に小川委員、副委員長に、浅岡委員と太田委員を選出

4. 委員長及び副委員長あいさつ

5 . 議事

(1) 計画策定の趣旨と検討委員会の役割

委員長

始めに計画策定の趣旨と検討委員会の役割について、事務局の説明をお願いします。

事務局

資料 2 について説明

(2) 委員会の公開について

委員長

次に、委員会の公開について、事務局の説明をお願いします。

事務局

委員会の公開について、これまで同様に傍聴の許可をお願いしたい。今回も申し込みがあり傍聴の希望者がいる。この会議の議事録のホームページでの公開もあわせてお願いしたい。

委員長

何かご意見があればお願いしたい。

それでは、この委員会を公開することとする。本日の委員会についても傍聴希望があるので希望者の入室を許す。(傍聴者 4 名が入室)

(3) 江戸川区の熟年者を取りまく状況

(4) 熟年しあわせ計画及び第 7 期介護保険事業計画の進捗について

委員長

議事の 3 番、4 番については、続けて事務局の説明をお願いします。

事務局

資料 4 ~ 7 について説明

委員長

委員の皆さんからご意見を伺いたいと思っている。今年度は 1 回の開催であるので、全員からお一人ずつ意見表明をお願いします。

委員

健康な方は健康のまま、病気にならないようにどうするかが一番であると考えている。区内には、スポーツジムがたくさんあり、利用されている方がたくさんいる。健康への意識をもっともっと若いうちから構築させていかなければならないと思う。

また、外国人の妻と結婚したが、妻がいなくて独居の方がいる。そういう方が漏れてしまわないように、独居の方と同じように目を向けていく必要がある。

委員

医療ソーシャルワーカーとして、医療福祉連絡会や医療と介護の連携の研修に関わっている。医療福祉連絡会については、熟年相談室と医療ソーシャルワーカーが、墨東病院や江東高齢者医療センターなどの医療ソーシャルワーカーとも連携して、年に2回研修を行っている。民間支援に関しては、先日ケアマネジャーと連携の研修を実施し、現場の本音の意見を出し合った。それをもとに来年度は、課題に向けて取り組んでいく。

先ほど一人暮らし高齢者が31.4%と説明があったが、老老介護（高齢者が高齢者を介護）や認認介護（認知症の方が認知症の方を介護）、キーパーソンになり得ない若い家族などを入れると、配慮が必要な方のパーセンテージがもっと上がってくるので、医療と介護がもっと連携していかなければいけない。

委員

老老介護での虐待について、最初は夫婦で頑張っているけど、どうしてもそういう状況になってしまうことがかなりある。介護事業者とケアマネジャーでは、改善できない部分があり、医療面でどうしてそうなったのかを説明するなど、医療関係者として関わりながらフォローしていきたいと考えている。

委員

いろいろな事業計画を立ててもそれを動かすのは人であり、今一番困っているのは人材がないことである。

専門職がやるべき仕事、そうでなくてもできる仕事と分けることが必要と感じる。介護の担い手研修が昨年度から始まった。計画160人のところ見込みが60人で、まだ参加者は少ないが、受講された方が私の施設で2人働いており非常に助かっているので、今後盛り上げていきたいと考えている。

リズム運動の60歳代の男性参加者が少ないので、力を入れていきたいということだが、60歳代はまだまだ現役であり、そちらに誘導するよりも介護の担い手研修に参加しませんか、働いてみませんかと誘導する方が良いと思う。

委員

住まい、住宅というところで気になっていることがある。有料老人ホームは利用料が高いが、利用料の安い住宅型の有料老人ホームもできている。サービス付き高齢者向け住宅や高齢者向け優良賃貸住宅が出来づらいのは、そちらに流れているからと考えられる。

高齢者と障害者等がともに利用できる共生型サービスが今年度から始まったが、共生型サービスの推進も一つ大きな課題である。

委員

人材不足は皆さんが思っている以上で、現場は疲弊しており、人がいないために閉鎖を余儀なくされている事業所もある。私の会社でも、地方から東京へ来る方を求めて地方にも出向いたが、ほとんど人が集まらない。人材派遣会社に頼むと年間の給料の 20%から 30%がかかり、これを捻出できる事業所はほとんどない。これをどうにかしないと介護の基盤が崩れてしまう。私たちの連絡会でも区とともに考えていきたい。

委員

小規模多機能型居宅介護、看護小規模多機能型居宅介護については、資料 7 にあるように制度の面でいうとなかなか進まない現状がある。認知度が低いということもあるが、泊り、通い、訪問のサービスを提供するなかで、それぞれのスキルが必要なサービスであり、人材難の中、スキルアップを図っていくことが大きな課題である。看護小規模多機能型居宅介護については、さらに看護師の確保が必要となるので難しい。

委員

いわゆる高齢者の地域デビューだが、65 歳以上という括りではなく、元気な高齢者を地域にどう参加してもらうかを考える必要がある。

生活支援に関してはゴミの問題、災害時の問題、高齢者の精神障害の問題があり、大事なことである。

他区では基幹型の地域包括支援センターがあり、専門性のある問題を解決しているそうで、江戸川区でも一考してもらいたい。

また、65 歳から 95 歳まで一律のデイサービスは、改善が必要と思う。前期高齢者、後期高齢者で分けるなど、今後、話し合っていければと思っている。

委員

私たちは、生活困窮者や高齢者に寄り添って物事を考えお宅を回っている。制度はいろいろと出来たが、担当する方が高齢者と話をするときに、ちゃんと言い分を聴き、どうしたら良いのかを考えていないと感じる。忙しいのはわかるが、成年後見人を付ける必要がある事例、もっと違うサービスがあるのではと思われる事例、頼んだけども希望どおりにならなかった事例などがあつたりする。高齢者にどれだけ寄り添えるかということがこれからの課題であると思う。

委員

人材確保を真剣に取り組む必要がある。介護の担い手として、必ずしも資格のある人でなくても、家族の介護をするレベルでもプラスになる。幅広く人材の確保を考えていかなければならないし、それに対する今後の進捗状況の検証も必要である。

今回の検証資料ではグラフや数値での評価が多いが、研修の人数などは、一人の人が何種類も受けたりしているのので、延べ人数ではなく実人数で見ることも必要と思う。

委員

私が公募委員に応募したのは、自分がこれからサービスを受ける側になったときに、江戸川区ではどんなサービスがあるのだろうと思ったのがきっかけである。今回、事前に資料が送られてきて、いろいろな施策をやっていることがわかったが、自分が興味を持たなければ情報は入ってこないのので、もう少し広くPRできたらと思う。

委員

100年の人生を元気に暮らしていくことがテーマだと思っている。昨年、有志の事業者で利用者の作品展を開催した。利用者たちはものすごい特技を持っているが、発表の場がない。いろいろな場所を提供できれば、もっともっと元気になると思う。

人材不足に関しては、アクティブシニアの方々をどのように活用するかが大きな課題である。今回、実験的な取り組みで、パソコンやアプリを使ったカルチャー教室を開催し、そこからボランティアに出てきてもらえるようにしたいと考えている。

委員

圧倒的なマンパワー不足である。私の事業所では、元気な高齢者のヘルパーが仕事をしてくれて助かっている。ヘルパーの仕事が、誇り高くそれなりに生活できるようになっていないのが現状である。

担い手研修を受講しても、残念ながらやれることが少ない。訪問介護に派遣できるかというとなかなか難しいが、大事な施策なので一つ一つ解決しながら広げていきたい。

これからは互助や共助をやらなければ誰もみてくれない。60代の方が、自助、互助、共助で主体的な役割を果たすよう、江戸川区が積極的に施策を展開していくことを期待している。

委員

何も無い地域に住んでおり、買い物にも相当歩くため、お年寄りが元気である。月に1回、歩いて来られる方を集めて地域ミニデイを開催し、ゲームや歌で楽しんでもらっている。これからも介護の勉強をしながら、地域の方々に話をしていく。

委員

くすのきクラブでは、リズム運動や合唱など様々な活動を行っているが、少しでも介護事業者の皆さんのお世話にならないようにすることが熟年者の務めである。

テニスのサークルもやっており、認知症の方も参加している。暖かく迎えて、1年でも2年でも認知症の進行を遅らせるようお手伝いすることも大事なことであると思っている。

委員

町会は、民生・児童委員、ファミリーヘルス推進員、くすのきクラブと一心同体の活動をしている。とにかく行事が多く、これ以上の活動は難しい状況ではあるが、小さい子供から高齢者までを見ている。

こういう会議の趣旨を、町会員にどのように伝えれば理解してもらえるのかが課題である。

委員

誰も好きで要介護になったわけではないので、介護が必要になっても明るく生活できればと思っている。いくつか不自由なことがあっても、みんなで明るく過ごせるような江戸川区をつくっていければと思っている。

委員

ある町会では、町会の行事に来られない方や町会に入っていない方を、月に1回連れ出して、楽しい催しをやっている。そういったことも展開できればと思う。

介護の人材不足は深刻であり、介護の現場で仕事をしている若い人の話を聞いても、自分の将来が見えないと言い、なかなか難しい問題であると思っている。

委員

認知症の母をみていた知人が癌になり、知人が急に倒れた時に、なごみの家で救急車を呼んでくれて、知人が亡くなったあとも認知症の母が施設に入れるように対応してくれた。なごみの家が出来て良かったと思った。

くすのきクラブは60歳からだが、その前の年齢の方が参加しているクラブは元気であるので、60歳からと切るのではなく、準会員として入ってもらったほうが良い。

ワンルームマンションの規制の影響で安い木造アパートの部屋が無くなる。生活保護の方が入れる部屋が減ってくる問題がある。

小規模多機能型居宅介護の空白圏域については、土地や建物は協力してくれる方はいるが、新しい事業であり事業者にとって採算で難しい面があるなど進んでいない。区のほうで補助金も付けるということで、空白圏域を改善できればと思っている。

副委員長

「自己評価」と「課題と対応策」で評価することは良いことなので、来年度以降も続けていただきたい。

資料4のところで、要介護認定者の数字が出ているが、要介護5があまり増えていない。軽度の方は伸びているが、重度の方が伸びていないのは、江戸川区の取り組みに何か特徴があるのか、分析してみても良いと思う。

この10年先を考えると、家族が働きながら介護できる体制に切り替えていかなければいけない。介護離職がゼロになるようにシステムを変えていかなければいけない。こういう議論が必要である。

なごみの家は、全国で見てもユニークである。数字も伸びて成果が出てきているが、問題はインフォーマルサービスとフォーマルサービスをミックスするというやり方で、そこが本当に上手く進むのか、どのようにミックスするのかを検討する必要がある。

介護人材をどう育てるのか、これがうまく進まなければ、在宅のほうは壊滅状態になる。私も人材養成に関わっているが、中堅がほとんど育っていない、マネジメントをする人が育っていないことが問題であり、この仕組みを考えていかなければならない。また、江戸川区は外国人が多いので、外国人の介護問題も課題である。日本にもこれから外国人の人材が入ってくるが、一緒になってやっていく仕組みづくりが宿題である。

副委員長

2025年問題、高齢化問題と言っていたが、人口が減っていることで、労働力が減ってきていることが、次の日本の問題であると思う。女性や高齢者の活用、効率化やスキルアップなど、それぞれが策を練って工夫しているが、どこかで行き詰まる。私なりに考えているのは、先進国がやったように外国の労働者を引き入れるか、北欧のように半分以上税金を納め超福祉国家にするかである。機会があったら考えてみていただきたい。

委員長

皆さんから貴重なご意見を伺った。

私も介護保険制度が始まった当初から活動してきた。介護を勉強すればするほどジレンマに陥るが、皆さんと同じように熱い思いを持って活動していきたいと考えている。

いただいたご意見は奥深いものであった。皆さんからのご意見を今後の課題として取り組んでいきたい。

6．その他

委員長

東京都医師会作成の冊子「住み慣れた街でいつでも～最期まで自分らしく暮らせるまち東京～」の紹介

委員

東京都医療社会事業協会の事業「医療と暮らしのほっとライン～医療ソーシャルワーカーによる電話相談～」の紹介

委員長

これにて、検討委員会を終了とする。

7．閉会